



愛するクリスチャンプレイズチャーチの神の家族のみなさん！一週間もお元気でしたか。

神様に用いられた聖書の多くの素晴らしい信仰の人物の共通点は神様が彼らを働かせる前に必ずまず、内側、心、内面的な信仰の訓練をして下さったことが分かります。イエスを信じる人々は以前の自分の生き方、考え方、見方など捨てて、イエス様に似、新しく変えられた人々ではないでしょうか。今日は神様に祝福され用いられた人生を送った聖書の多くの素晴らしい信仰の人たちの共通点である忍耐について共に考えて見たいと思います。

なぜなら、2014年また新しい人生のレースをスタートし走り続けている我々に何よりもこの忍耐が必要とされているからです。“こういうわけで、このように多くの証人たちが、雲のように私たちを取り巻いているのですから、私たちも、いっさいの重荷とまつわりつく罪とを捨てて、私たちの前に置かれている競争を忍耐をもって走り続けようではありませんか。”(ヘブル12:1) 事実今年も、そして人生の我々の前に置かれているこの信仰のレースを最後の決勝点まで走り終える勝敗の鍵がこの忍耐にあるほど聖書は大事だと教えて下さっています。

<忍耐に含まれている神様の祝福>

新約聖書の箴言であり、知恵の書だと、クリスチャンが実践すべき指針書と呼ばれるヤコブの手紙でイエス様の兄弟であった使徒ヤコブは忍耐の大切さを最初から強調し、訴えています。ヤコブの手紙1章は忍耐から始めます。“私の兄弟たち。さまざまな試練に会う時は、それをこの上もない喜びと思いなさい。信仰がためされると忍耐が生じるということを、あなたがたは知っているからです。その忍耐を完全に働かせなさい。そうすれば、あなたがたは、何一つ欠けたところのない、成長を遂げた、完全な者となります。(ヤコブ1:2-4)”

それだけではなく、ヤコブの手紙の最後の5章でも再び忍耐の大切さを強調します。忍耐の大切さを強調するために使徒ヤコブは農夫(ヤコブ5:7-8)、預言者(ヤコブ5:10)、そしてヨブ(ヤコブ5:11)をたとえとして使っています。今日聖書の本文であるヤコブ書の御言葉がこれほど忍耐を強調している理由は、忍耐をとおして神様のすべての約束を受け継ぐことができるからです。“それは、あなたがたがなまけずに、信仰と忍耐によって約束のものを相続するある人たちに、ならう者となるためです。(ヘブル人への手紙6:12)”

つまり忍耐には豊かな神様の祝福が含まれていることを意味します。ある面、忍耐という信仰の姿勢ほど我々の人生において大きく祝福をもたらすものもありません。使徒ヤコブは忍耐を信仰ある者の最高の姿勢として証しています。我々が読んでいる、このヤコブの手紙は霊的成熟と知恵に関する御言葉です。ヤコブの手紙によって成熟の尺度(しゃくど)とまことの信仰の知恵を学ぶことができます。ヤコブはその成熟の尺度を一番目に忍耐として試みています。忍耐とは成熟の尺度のみならず、我々が慕い求めるべき姿勢であるということです。

そういうわけで使徒ヤコブは本文の1章4節でこう語っています。“その忍耐を完全に働かせなさい。そうすれば、あなたがたは、何一つ欠けたところのない、成長を遂げた、完全な者となります。”

愛する信仰の家族のみなさん! 本当におどろくべき約束の御言葉ではありませんか。忍耐する人こそ成熟した人であって、何一つ欠けたところのない、完全な者となると約束されました。ここで、完全な者になるという意味は“必要なすべてを整える者になる。”と言う意味なのです。戦争場に出る兵士に一番必要な銃(じゅう)を準備することになるや魚を取りに海に出る漁師が一番必要な網を準備することと同じです。信仰によって人生の道のりを走り続けるべき我々にもこの忍耐つというものをかならず身につけなければならぬ事を聖書は教えて下さっているのです。

イギリスの偉大な学者であり、作家であったサムエルジョンソンは“まことに偉大なものは力によるのではなく、忍耐深さによって成し遂げられる。”という名言を残しました。ドイツの有名な作家だったゲーテは“実際この世のすべてが粘り強さ、忍耐深さにかかっているのだ。”という大切な名言を残しました。

<1.忍耐は成熟と知恵の表示です。>

みなさんは成熟された人と未熟な人をどうやって区別していますか。その基準は何でしょうか。

我々はすぐ、未熟な人と成熟した人をわきまえる事ができます。その二つをはかる基準が忍耐です。未熟な人の特徴は忍耐ができません。耐え忍ぶことができません。しかし、成熟した人は耐え忍ぶことができます。未熟な人は落ち着きがなく、いつも揺らぎますが、成熟した人は安定感があります。それは忍耐という根に安定感の土台があるからです。(しかし、障害をもっている人はたしかに区別されなければなりません)。人間関係において生じるさまざまな問題は人の未熟さから生じる事が大体多いのでは泣きでしょうか。言い換えると未熟さの特徴はあせてしまうことです。あわただしさのゆえにもめることになりやす。極端な言い方になり、言葉や行動によってほかの人を傷つける事になります。

そして愛するみなさん、忍耐の中の忍耐は怒りを抑える。つまり怒りを耐えることです。我々が警戒し、きちんとおさめるべきことの一つが怒りですが、この怒りは忍耐しきれないところから始まります。もちろん怒りという感情がすべて悪いことではありません。しかしいくら良い意味での怒りだとしてもそれが調節できなかった時は危なく、だれかにむしろ深い傷を残してしま

う場合もあります。我々が警戒すべき理由は怒ると過激になるからです。怒ると神経質になり、自分の感情をおさめず、言葉や行動が極端になりやすいからです。そして我々が怒りを耐えて、遠ざけるべき理由は我々が怒る時、怒りの結果まで見抜くことができないからです。哲学者マルクスアウレリウスはこう言いました。“怒りの原因よりもっと苦しいのはその結果です。”セネカという人は“怒りをおさめないといわ我々を怒らせた心の傷よりもっと大きい傷が我々に残るだろう。”と言いました。怒りは他の人にだけではなく自分にも大きい傷を残す結果をもたらすことを覚えましょう。ですから、我々が忍耐する時、怒りのゆえに起きるさまざまな問題を予防することができます。

旧約の箴言の言葉にも“怒りをおそくする者は勇士にまさり、自分の心を治める者は町を攻め取る者にまさる。”(箴言16:32) ちよつとだけ我慢すればよくなる人間関係が忍耐しないことによりやぶれる場合もあります。忍耐すれば問題を解決する知恵をいただけるだけではなく未来の多くの問題も予防することができます。大人だとしてもみんなが成熟し、知恵があるとはかぎらないでしょう。幼い頃、深刻に悩んでいた多くの問題がいまになって考えてみると大した問題にみえないのと同じように成熟すれば多くの問題は自然に消え去ります。忍耐も訓練です。ただよく我慢するタイプだから耐えて、短気だから耐えられないことではありません。訓練されてないからです。今日の御言葉は忍耐を働かせば、何一つ欠けたところもなく、成長を遂げた、完全な者となるのだと教えてくださいました。ですから、我々は忍耐を通して知恵を得、成熟に至ることを期待し、今を耐え忍んで続けて歩んで行くべきではないでしょうか。

<2. 忍耐は愛の原理です。>

愛するということは忍耐することです。我々は愛するほど忍耐します。我慢できないということは愛が冷めたという意味でもあります。愛すればどんな苦難も、どんな環境も耐えることができますでしょう。第一コリント人への手紙13章の御言葉はみなさんもよくご存知だと思いますが、愛というのは耐え忍ぶこと、つまり、忍耐と関連されていて、忍耐のない愛とは不可能であることをアピールしています。“愛は寛容であり、愛は親切です。また人をねたみません。愛は自慢せず、高慢になりません。(第一コリント13:4)“、“すべてを我慢し、すべてを信じ、すべてを期待し、すべてを耐え忍びます。(第一コリント13:7) ”

愛というのは感情から始まる場合もあります。しかし、まことの愛は感情を越えた意志的な愛です。感情はすぐ消えますが、まことの愛は感情が消えた後も残ります。その愛は意志をもって責任を覆う愛です。耐え忍ぶ愛が美しいのは我々が耐え忍べばある瞬間消えた感情がふたたび起こされるからです。まるで満ち潮(しお)と引き潮のように我々の感情は揺れ動かされますが、耐え忍べば愛はふたたび回復されることができます。今日我々が忍耐しながら愛すべき対象はだれでしょうか。一番近くにいる人々です。遠くにいる人々は愛しやすいです。あまりぶつかることがないからです。しかし、一番近くにいる人々を愛することはたやすくありません。ですから一番近くにいる人々を忍耐をもって愛さなければなりません。そして自分に対しても忍耐し、愛さなければなりません。人はすぐ挫折します。すぐ落胆しあきらめようとします。自分自身がどれだけ動かされやすいのか自分こそよく知っています。そんな自分に向って忍耐し、抱きしめてあげることこそまことの自己愛ではないでしょうか。自分に向って長らく忍耐できる人こそ、ほかの人に向っても忍耐できる人です。

<3. 忍耐は成就の原理です。>

すべての偉大な成就是忍耐の結果です。私の生涯においても一番大切に思っている訓練も忍耐です。忍耐は苦しみを耐える力であり、意志でもあります。耐え忍ぶことは苦しみを先に選び、楽しみは後に味わうことです。

数年前[マシュマロの話](ホアキムでポサダワエレンシア作)がベストセラーになったことがあります。この本は自分の欲を自制できる人がそうでない人より成功する確率が高い事実を実験し、証明します。この本の内容はこうです。ステンポーど一大学で600人の子どもを対象に一つの実験をしました。子どもたちにマシュマロを一つあげて約15分の間食べないで待てれば、もう一つのマシュマロをあげると言ったあと、彼らがどのようにするのかみでみることです。あす子どもたちは目の前にあるおいしいマシュマロを食べないで15分を待ちました。15分を待てればもう一つもらえるからです。しかしある子どもたちは15分を待たず、マシュマロを食べてしまいました。当然もう一つのマシュマロをもらうことはできませんでした。この実験はここで終わりませんでした。おどろかされることはこの実験に参加した600人の子どもたちの10年後の所在(しよざい)を追跡(ついせき)してそのなか200人の子どもたちの成長過程を調べたことです。その結果15分を我慢した子どもたちが我慢できなかった子どもたちより成績が良かったし、友達関係も円満でストレスも効果的に管理している事実があきらかにされました。たった15分でしたが、目の前のマシュマロに満足してしまった子どもより一瞬の誘惑を耐え忍んだ子どもたちがあきらかに成功し、成長していたという事実が知らされました。忍耐というのはもっと大きい報いともっと大きい結果のために苦しみを先に選び取ることです。

“それは、あなたがたがなまけずに、信仰と忍耐によって約束のものを相続するある人たちに、ならう者となるためです。(ヘブル人への手紙6:12)”偉大な成就是突然されることではありません。忍耐はかならず、成就をもたらせます。

<適用1 苦難の中で耐え忍べる方法: 苦難後のうつくしい結果を期待しましょう。>

難の中で耐え忍べる道は苦難後の美しい結果を信じ期待することです。忍耐する人は忍耐後にはかなえられることをみるビジョンを持っている人です。同じくイエス様が十字架の苦難を耐え忍ばれたことにたいし聖書はこう言っています。

“信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。イエスは、ご自分の前に置かれた喜びのゆえに、はずかしめをものともせず十字架を忍び、神の御座の右に着座されました。”(ヘブル12:2)

ヨブが苦難においても耐え忍ぶことができたのも苦難後のすばらしい結果をみることができたからです。

“しかし、神は、私の行く道を知っておられる。神は私を調べられる。私は金のように、出てくる。”(ヨブ23:10)

モーセも苦難を選び、苦難の中で耐え忍ぶことができたのもやがて与えられる報いと報いを与えてくださる神様のゆえだと言いました。“信仰によって、モーセは成人したとき、パロの娘の子と呼ばれることを拒み、はかない罪の楽しみを受けるよりは、むしろ神の民とともに苦しむことを選び取りました。彼は、キリストのゆえに受けるそしりを、エジプトの宝にまさる大きな富と思いました。彼は報いとして与えられるものから目を離さなかったのです。(ヘブル11:24-26)”

<あきらめてはいけない時。(知恵によって始まる朝)>という詩があつてみなさんにご紹介します。

うまくものごとがいけない時、あなたが歩いている道がずっと上り坂である時、資金はすくないのに借金は多い時、笑いたいのためにため息が出てくる時、なやみがあなたを押し寄せる時、休まなければならないなら休むが、ただし、あきらめてはいけない。人生とは屈曲(くつきょく)がある変なものであつて、多くの失敗によって方向が変えられたりするが、それにも耐え続ければ勝てるだろう。のろのろして、もどかしくてもあきらめてはいけない。再び、風がふいたら成功するであろう。成功のいただきが遠く見えても近いかも知れない。あなたがあきらめてはいけない時は、一番つらい時であろう。

<適用2:忍耐できるように助ける励まし者になりましょう。>

人生はマラソンのようなレースだとよく言われます。つまり、短距離(たんきょり)ではなく、長距離だという意味でしょう。

愛する信仰の家族のみなさん！長距離を競走の時、走ってる人に一番障害物って何だと思いませんか。

それは最初にあせる心であつて段々諦めたくなる心ではないでしょうか。我々も人生のレースの走っている間そのような限界を覚えられる時が来ると思いますが、その時我々に一番必要なことはだれだと思いませんか。最後まで諦めないように助けてくれる励ましの人ではないでしょうか。我々が走っていることに、やっていることに、諦めないように、続けられるように拍手を送ってくれる励ましの者なのです。聖書には主イエスキリストを信じて歩んでいる人々には目には見えないですが、我々の信仰の人生、信仰のレースを励ましてくれる人々がいるし、その人々が我々を見ながら励ましの拍手を送っていると教えて下さっています。

ですから、主にある一つの兄弟、姉妹のみなさん！覚えるべきことは誰一人も容易く、楽に走っている人は決していないということです。私たちをもお互いに励まし合っていきませんか。今日もここに集っているみんな、お一人お一人が今年も各自自分の前に置かれている人生のレースを一生懸命、必死に走って行けるように。ですから、我々はお互いに良い励ましの者になってあげなければなりません。

今日我々は御言葉を通して身につけるべき忍耐について学ばされました。神様は忍耐の中で素晴らしい祝福を盛り込んで下さった事が分かりました。忍耐はクリスチャンの成熟の表示であり、愛の原理です。忍耐は成就の原理であります。人生にはどんな試練が訪れるか予測もできないし、その種類も多様で防ぐ道はないかも知れません。しかし、忍耐は多くの問題を未然に予防する知恵の原理にもなることを覚えておきましょう。それ以外でも忍耐は人を育てる原理にもなり、神様に栄光を帰す原理にもなります。

忍耐をもっと身につけられる一番の良い方法はみなさん！ただ忍耐するしかありません。考えすぎないで、不安に思わないで、今年もまた改めて忍耐することに決めましょう。真の人生の勝利者と失敗者の差は意外ともっと些細なことで決められます。実際勝利者は他の人よりもうちょっと長く耐えられた人なのです。他の人々が諦めたところでもうちょっと立てていることなのです。勝利者は小さなことから忍耐を少しづつ養っていく人なのです。今日みなさんはどんな苦しみや苦難にあっていますか。今日からこの忍耐に対する神様の約束を信じて、以前よりもうちょっと忍耐することに選択し、決断しませんか。神様の豊かな祝福が忍耐する事をしたい求め、渴望するクリスチャンプレイズチャーチの愛する神の家族の上に豊かに注がれますように主イエスキリストの御名によってお祈り申し上げます。アーメン！

* 聖書からの忍耐の意味はギリシャ語の“フィポメノ”という単語(新約32回)として(軍事的意味としてよく使われた)生き残るまで耐える。堅く立つ、待ち望むという意味を持っています。